資料３

令和２年度　久喜市青少年問題協議会
協議のまとめ

令和２年度久喜市青少年問題協議会では、以下の５つのテーマについて協議を行いました。各委員から多岐にわたる意見等が出されましたので、情報提供いたします。

テーマ１　各委員が目にした子どもたちの様子

・外遊びしない、出来ないことにより、家にこもり SNS やゲームに傾倒していく面がある。

・小さな子を連れた親同士で話に夢中になり、子ども同士が遊んだりけんかを始めると、強い言動で叱る姿が度々見受けられる。

・スマートフォンの普及により SNS を通じた女子児童の犯罪被害が増えている。

・学校での部活や行事が減ったことで活躍の場がない子どもが増えている。

テーマ２　青少年の健全育成に向けて保護者・関係者の援助

・SNS 等について子どもたちの方が良く知っている場合があり、保護者にも知識が必要である。

・地域で子どもたちに声かけを積極的に行うなど、関係性を構築することが大切である。

・コロナ禍により、警察署による防犯教室や各種キャンペーンを学校で実施することが難しくなっている。

・大規模なイベントだけでなく、地域の美化活動や日常的な見守り、声かけなどにより気持ちよく過ごせる雰囲気づくりが大切である。

テーマ３　子どもを取り巻く生活環境で気になっていること

・SNS の問題について、学校で配布されたタブレットを各家庭でどの様に扱うかが課題である。

・コロナ禍による行事の中止が子どもたちのストレスとなっている。

・極端に帰宅時間の遅い小中学生がいる。

・屋外で子どもが集まって、声を出して思い切り遊べる場所が無いように思われる。中高生が公園に集まっているだけで通報されるような現状が見受けられる。

テーマ４　現在取り組んでいる子どもの安全を考えたときに配慮すべきこと

・行事は親子と地域がコミュニケーションをとるための貴重な場であり、安易に中止すべきではない。

・地域における危険な場所の確認とその対応について、関係者間での共通理解を図ることが重要である。

・事件等に巻き込まれた青少年への取り扱いには慎重を期すべき。地域・学校内で不確かな噂等が出回らないようにする。

テーマ５　青少年問題を防止する方策

・家庭で出来る行事を考えて子どもに発表の場を与える。

・学校行事と地域の行事に親子、教職員、地域住民が相互に参加し、交流を図っていく。

・広報及び啓発活動について SNS を用いて、青少年だけでなく保護者の目に入るようなものを配信する。

・スマートフォンや SNS の危険性について小学校低学年から教育していく。

・学校や警察、区長などの垣根を越えて情報共有を行っていく。

久喜市青少年問題協議会

会　長　　小　松　智　子
副会長　　宮　内　　智

委　員　　弘　田　耕　平　久喜警察署生活安全課長
委　員　　奥　田　正　彦　幸手警察署生活安全課長
委　員　　柴　崎　憲　一　久喜市校長会　久喜東中学校長
委　員　　猪　野　敏　夫　市内高等学校長　久喜工業高等学校長
委　員　　杉　山　公　子　埼玉県中央児童相談所
委　員　　清　川　友　宏　久喜市 PTA 連合会
委　員　　田　中　小夜子　久喜市民生委員・児童委員協議会第一地区民協副会長
委　員　　宮　内　　智　久喜市青少年育成市民会議会長
委　員　　坂　本　孝　夫　久喜・幸手地区保護司会　久喜支部
委　員　　小　松　智　子　学識経験者
委　員　　大　森　幸　子　公募による市民
委　員　　長谷川　幸　恵　公募による市民
委　員　　小　林　恵　子　公募による市民
委　員　　山　中　今日子　公募による市民
委　員　　堀　井　昭　雅　公募による市民